

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：32622

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K10492

研究課題名（和文）日本における医学生のレジリエンス育成教育プログラムの実践と継続的評価

研究課題名（英文）Developing, implement and evaluating a curriculum for a resilient medical student in Japan

研究代表者

土屋 静馬 (Shizuma, Tsuchiya)

昭和大学・医学部・准教授

研究者番号：70439438

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は日本の医学生のレジリエンス育成カリキュラムを作成することを目的としたが、まず「日本人の自己観に根差したレジリエンス育成教育モデルの概念図」を作成した。これは欧米型と日本人型のレジリエンス観の差異を明らかにしたものである。次にこの概念図に基づいたレジリエンス育成カリキュラムを昭和大学医学部に導入した。医学部6年間のらせん型カリキュラムとして、各学修段階に応じた具体的な学修機会を設けた。さらに、導入したカリキュラムの学修成果を教育心理学や行動科学的観点から評価し、いくつかの指標でレジリエンスに関連する医師としてのコンピテンシーの強化や、職業人としての自己観に変化が見られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

この研究の社会的意義は、日本の医学生が抱える精神的負担の軽減と、医療現場でのレジリエンス強化に貢献する点にあった。過密なカリキュラムにより、医学生が重度のストレスや抑うつ状態に陥ることが報告されている中、本研究は医学部におけるレジリエンス育成を目的としたカリキュラムを通じて、学生の精神的健康を保護し、医師としての持続可能なキャリア形成を支援する可能性が示された。特に、日本人の自己観に基づいたレジリエンス教育モデルを開発することで、文化的特性を踏まえた効果的な教育アプローチを提供し、欧米型のレジリエンス観との比較を通じて、より多様な教育手法の発展に寄与したと考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to develop a resilience training curriculum for Japanese medical students. Initially, a conceptual diagram of a resilience training education model rooted in the Japanese self-concept was created. This model elucidated the differences between Western and Japanese perspectives on resilience. Subsequently, this conceptual framework was utilized to implement a resilience training curriculum at Showa University School of Medicine. The curriculum was designed as a spiral model spanning six years of medical education, providing specific learning opportunities tailored to each stage of academic development. Furthermore, the educational outcomes of the implemented curriculum were evaluated from the perspectives of educational psychology and behavioral science. The results indicated that several indicators showed enhancement in resilience-related competencies as physicians and a shift in the professional self-concept.

研究分野：医学教育

キーワード：医学教育 レジリエンス カリキュラム開発 カリキュラム評価 自己観 構成主義

1. 研究開始当初の背景

近年、日本の医学部では地域の文化や伝統を尊重しつつ、世界医学教育連盟の評価基準に準拠したカリキュラムの作成が求められている。しかし、国内におけるレジリエンス育成教育に関連するプログラムの学修目標や方略、および評価方法が教育心理学や社会学、行動科学に基づいて実践され、その実践に対する批判的検証を踏まえて段階的に発展できる教育プログラムはほとんど存在しない。そのため、この分野にはまだ多くの実証研究の余地が残されていた。

申請者らの文献レビューでは、西欧社会で前提とされる「確固たる強い自己」を基盤としたレジリエンス観と、日本人に特徴的な「他者との繋がりの中で形成される自己」に基づくレジリエンス観の違いが明らかとなった。日本の文化的背景を考慮すると、レジリエンス育成教育プログラムの学修目標や方略も異なるべきだが、医学教育においてこの観点からの実証研究が不足しているため、本研究の着想に至った。

国内外の関連研究動向を見ると、日本の文化的自己観に根差したレジリエンス育成教育プログラムの作成や実行に関する実証研究が進まない要因として、教育者が教育心理学などの質的研究法に習熟していないことや、医学教育担当者が他の専門分野との兼任で十分な時間を取れないことが挙げられた。世界的にもレジリエンス育成教育プログラムを系統的に医学教育に取り入れている大学は少なく、米国のロチェスター大学、カナダのマギル大学、豪州のモナシュ大学が代表例として挙げられる。しかし、これらの大学も文化的自己観を意識したプログラムの概念図の作成や、プログラム実施後の効果の中長期的なデータの追跡は行っていない。従って、本研究は世界の医学教育研究の動向を踏まえても先進的な取り組みといえる。

2. 研究の目的

本研究の目的は以下の3つである。

日本人の自己観に根差したレジリエンス育成教育モデル（概念図）の作成。

このモデルに基づいたレジリエンス育成カリキュラムの作成と昭和大学医学部での導入。
実施したレジリエンス育成教育プログラムの学修成果の評価と改良のための批判的検証。

3. 研究の方法

上記の各目的に対する方法は以下の通りである。

日本人の自己観に根差したレジリエンス育成教育モデル（概念図）の作成

方法：カナダと日本の緩和ケア医、各約15名（合計30名）を対象に、対面またはSkype®などのビデオ通話システムを用いて半構造化面接を実施します。データ分析にはStrauss & CorbinのGrounded Theoryを用い、両国の熟達した医師のレジリエンス観のカテゴリーとテーマの差異を比較検討した。

提示したレジリエンス育成教育モデルに基づいたカリキュラムの作成

方法：研究代表者および研究分担者が昭和大学医学部6年間のレジリエンス育成教育プログラム全体の学修目標と方略、および評価方法の素案を作成した。これを昭和大学医学部カリキュラム検討委員会で協議し、一貫性・妥当性・実現可能性を検討した。

実施したレジリエンス育成プログラムの学修成果の評価

方法：昭和大学医学部に在籍する医学生を対象に、各学年の学期末に、レジリエンスに関連する質問紙調査を行った。また、医師のコンピテンシーについては、昭和大学医学部のコンピテンシーに対する自己評価調査を行った（用いた質問紙は日本語版Resilience scale、日本語版Symptom Checklist-90-Revised(SCL-90-R)、World Health Organization Quality of Life (WHOQOL)日本語版)。

4. 研究成果

本研究は、日本の医学生におけるレジリエンス育成を目的とした教育プログラムの開発を目指し、まず「日本人の自己観に根差したレジリエンス育成教育モデルの概念図」を作成した。これは、欧米型と日本人型のレジリエンス観の差異を明らかにするものであり、両者の文化的背景や価値観の違いを反映している。具体的には、欧米型のレジリエンス観が「確固たる強い自己」を基盤としているのに対し、日本人型のレジリエンス観は「他者との繋がりの中で形成される自己」を基盤としている。

本研究では、北米と日本の緩和ケア医を対象に半構造化面接を実施し、得られたデータをStrauss & CorbinのGrounded Theoryを用いて分析した。北米では、マギル大学やCanadian Society of Palliative Care Physiciansに所属する緩和ケア医 約15名、日本では日本緩和

医療学会に所属する緩和ケア医 17 名、合計 32 名を対象とした。この分析を通じて、北米と日本の熟達した医師が抱くレジリエンス観のカテゴリーとテーマの差異が明らかになった。

次に、この概念図に基づいたレジリエンス育成カリキュラムを昭和大学医学部に導入した。このカリキュラムは、医学部の 6 年間を通じて実施されるらせん型カリキュラムであり、各学修段階に応じた具体的な学修機会を提供する。例えば、1 年次には「ヒューマンコミュニケーション A,B」、「人の行動と心理」、「ジェンダーの社会学」、「医療心理学」など、2 年次には「日本語対話法」、「いのちの講座」、3 年次には「医療面接・医師と患者」などの科目が含まれている。これらの科目を通じて、学生は日本人の自己観に根差したレジリエンスの概念を学び、実践する機会を得る。

さらに、導入したカリキュラムの学修成果を教育心理学や行動科学的観点から評価した。評価方法としては、日本語版 Resilience scale、日本語版 Symptom Checklist-90-Revised (SCL-90-R)、日本語版 Behavior & Symptom Identification Scale (BASIS-32)、World Health Organization Quality of Life (WHOQOL) 日本語版などを用いた。これらの評価は各学年の開講時期 (4 月) および後期開始時期 (9 月) に実施され、学生のレジリエンスに関連する自己観や精神的健康状態を測定した。

本研究の成果は、国内外の学会や学術誌にて報告され、批判的検証を受けた。これにより、次年度以降のプログラムの小改変に役立てるとともに、国内外の医学教育におけるレジリエンス育成教育の基礎的資料として活用されることが期待される。最終的に、本研究の問いである「日本の医学生にとって標準的で効果的なレジリエンス育成教育プログラムの開発と発展のプロセスにおいて必須の要件とは何か？」に答えるための具体的な方策が明らかになり、日本の医学部におけるレジリエンス育成教育の向上に寄与することが期待される。

以上のように、本研究は日本の医学教育におけるレジリエンス育成の重要性を明確にし、具体的な教育モデルの開発とその効果を実証することにより、教育現場における実践的なガイドラインを提供するものである。これにより、医学生が精神的に健全でありながら高い専門性を持つ医師として成長するための一助となることが期待される。

以上

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 6件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 土屋 静馬、恒藤 暁、三好 智子	4. 巻 53
2. 論文標題 1. マギル大学医学部のカリキュラム開発の歴史と "Healer (癒し人) " の役割を担う医療者の育成	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 329 ~ 335
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.53.4_329	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 土屋 静馬、恒藤 暁、三好 智子	4. 巻 53
2. 論文標題 2. "マインドフルネス" は医療者教育でどう活かされうるのか?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 337 ~ 343
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.53.4_337	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 恒藤 暁、土屋 静馬、三好 智子	4. 巻 53
2. 論文標題 3. Whole Person Care教育の目的と方法	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 345 ~ 351
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.53.4_345	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 恒藤 暁、土屋 静馬、三好 智子	4. 巻 53
2. 論文標題 4. マインドフルネスにある深い気づきと臨床的調和を育む	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 353 ~ 360
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.53.4_353	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三好 智子、恒藤 暁、土屋 静馬	4. 巻 53
2. 論文標題 5. 患者の苦悩へどのように応答するか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 361 ~ 367
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.53.4_361	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田 裕子	4. 巻 53
2. 論文標題 書評『Whole Person Care教育編 マインドフルネスにある深い気付きと臨床的調和』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 368 ~ 368
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.53.4_368	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高宮 有介	4. 巻 53
2. 論文標題 15-1 昭和大学におけるセルフケア教育の実例	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 256 ~ 261
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.53.3_256	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tsuchiya Shizuma, Siriratsivawong Kris, Furuta Atsuko, Arima Makiko, Takamiya Yusuke, Ogata Hiroaki, Izumi Miki	4. 巻 9
2. 論文標題 Adaptive challenges of curriculum implementation for enhancing medical student resilience at Showa University in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Whole Person Care	6. 最初と最後の頁 44 ~ 45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.26443/ijwpc.v9i1.339	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計23件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Tsuchiya Shizuma, Siriratsivawong Kris, Furuta Atsuko, Arima Makiko, Takamiya Yusuke, Ogata Hiroaki, Izumi Miki
2. 発表標題 Adaptive challenges of curriculum implementation for enhancing medical student resilience at Showa University in Japan
3. 学会等名 International Congress on Whole Person Care (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 土屋静馬
2. 発表標題 『医療面接教育用・対話型 AI バーチャル模擬患者』の開発と国内医学部カリキュラムでの導入の検討
3. 学会等名 日本医学教育学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 土屋静馬、武田裕子、西城卓也
2. 発表標題 査読者に学ぶ！よい“医学教育論文”の書き方ワークショップ
3. 学会等名 日本医学教育学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 土屋静馬、松島加代子、中川晋
2. 発表標題 あなたの専門領域学会の“教育活動/キャリア”を支えるシンポジウム -みんなはどうしてるの？
3. 学会等名 日本医学教育学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 土屋静馬、三好智子、恒藤暁
2. 発表標題 苦悩する患者と向き合うための医療者教育～マギル大学「Whole Person Care Program」の授業を経験してみよう～
3. 学会等名 日本医学教育学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 土屋静馬
2. 発表標題 臨床での「いま・ここ」への気づきの活かし方
3. 学会等名 日本緩和医療学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 土屋静馬、三原弘、毛利貴子
2. 発表標題 全人的医療 90分実践ワークショップ
3. 学会等名 日本内科学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 土屋静馬、三好智子、恒藤暁
2. 発表標題 全人的医療者教育に心を燃やせ！
3. 学会等名 日本医学教育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 土屋静馬、高宮有介、泉美貴
2. 発表標題 昭和大学の挑戦－初年次からの臨床実習の取り組み
3. 学会等名 日本医学教育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 土屋静馬、松島加代子、中川晋
2. 発表標題 「専門医教育の未来を語ろう！（第2弾）」 “経験”の質の保証、指導医の育成、指導医の評価をどうする！？
3. 学会等名 日本医学教育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 土屋静馬
2. 発表標題 「全人的医療」とは！？ 日本内科学会専門医部会における取り組み
3. 学会等名 日本心療内科学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 土屋静馬、三原弘、毛利貴子
2. 発表標題 全人的医療 オンデマンド 実践講演会
3. 学会等名 日本内科学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shizuma Tsuchiya
2. 発表標題 Title: How can we implement and develop a curriculum for a resilient medical student? - An introduction for resiliency programs for medical students at Showa University
3. 学会等名 53th Japanese Society of Medical Education
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 土屋静馬
2. 発表標題 セルフケア教育～コロナ新時代の学生自身の心のケア～
3. 学会等名 第53回日本医学教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 土屋静馬
2. 発表標題 シンポジウム3：「専門医教育」の未来を語ろう！－ 卒後教育のシームレス化を目指して
3. 学会等名 第53回日本医学教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kris Siri, Shizuma Tsuchiya
2. 発表標題 Clinical interview with standardized patients by video conference provides training for telemedicine
3. 学会等名 53th Japanese Society of Medical Education
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 土屋静馬
2. 発表標題 シンポジウム3「心療内科における内科学的発展プロジェクト」 「全人的医療」とは ; 日本内科学会・専門医部会における取り組み
3. 学会等名 第25回日本心療内科学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 土屋静馬
2. 発表標題 「全人的医療の実践を目指した医療者教育の必要性」「全人的医療」という言葉で問われるもの カナダ・マギル大学 Whole Person Care Program の取り組み
3. 学会等名 第6回日本薬学教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shizuma Tsuchiya, Yusuke Takamiya, Kris Siriratsivawong, Atsuko Furuta, Makiko Arima, Miki Izumi How can we design an effective curriculum for a resilient medical student?
2. 発表標題 How can we design an effective curriculum for a resilient medical student?
3. 学会等名 日本医学教育学会（誌上開催）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 土屋静馬
2. 発表標題 『Whole Person Careのために明日から私たちができること：新しい医療と医療者教育』
3. 学会等名 第1回日本Whole Person Care研究会学術大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shizuma Tsuchiya, Kris Siriratsivawong, Hiromichi Tsuchiya, Yusuke Takamiya, Miki Izumi
2. 発表標題 HOW CAN WE DESIGN A CURRICULUM FOR A RESILIENT MEDICAL STUDENT? - A BLUEPRINT FOR RESILIENCY PROGRAMS FOR MED STUDENTS IN JAPAN
3. 学会等名 International congress on whole person care (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yusuke Takamiya , Shizuma Tsuchiya
2. 発表標題 MINDFULNESS-BASED SELF-CARE EDUCATION FOR HEALTHCARE PROFESSIONAL STUDENTS IN JAPAN
3. 学会等名 International congress on whole person care (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 土屋静馬
2. 発表標題 どのようにレジリエンスのある臨床医 (Resilient physician) を育てられるか? - 昭和大学医学部新カリキュラムにおけるレジリンス育成教育のBlue Print
3. 学会等名 日本医学教育学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 訳 土屋静馬 三好智子 恒藤暁 著 スティーブン・リーベン トム・ハッチンソン	4. 発行年 2022年
2. 出版社 三輪書店	5. 総ページ数 234
3. 書名 Whole Person Care 教育編ーマインドフルネスにある深い気づきと臨床的調和	

1. 著者名 土屋 静馬、塚原 知樹	4. 発行年 2023年
2. 出版社 メディカル・サイエンス・インターナショナル	5. 総ページ数 368
3. 書名 マインドフル・プラクティス	

1. 著者名 ステイブン・リーベン、トム・ハッチンソン 監訳 恒藤暁, 土屋静馬, 三好智子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 三輪書店	5. 総ページ数 252
3. 書名 Whole Person Care 教育編ーマインドフルネスにある深い気づきと臨床的調和	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	坂下 暁子 (Akiko Sakashita) (00221268)	昭和大学・医学部・教授 (32622)	論文作成、学会発表指導
研究分担者	泉 美貴 (Miki Izumi) (30228655)	昭和大学・医学部・教授 (32622)	カリキュラム開発指導
研究分担者	木内 祐二 (Yuji Kiuchi) (50204821)	昭和大学・医学部・教授 (32622)	論文作成、学会発表指導 カリキュラム開発指導

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	高宮 有介 (Yusuke Takamiya) (90255737)	昭和大学・医学部・教授 (32622)	データ分析、研究補助

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関